

# ひろか

だより

第371号

令和5年6月15日

発行

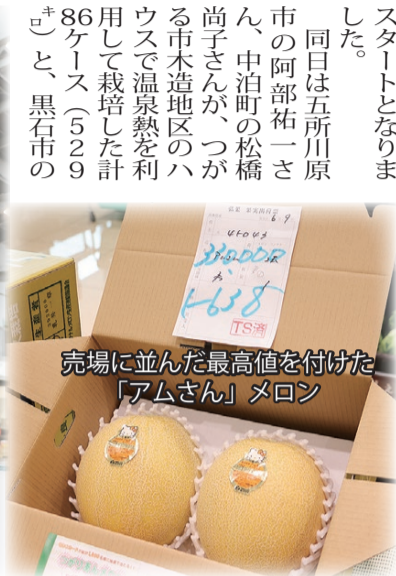
弘果 弘前中央青果株式会社

TEL 0172-27-5511

弘果




過去最高値の33万円を付けた瞬間



売場に並んだ最高値を付けた「アムさん」メロン

当社オリジナルブランド「アムさん」の初競売が6月9日、当社第1卸売場において行われました。競売では、秀2玉サイズ1箱が33万円で競り落とされ、過去最高値を記録し、幸先の良いスタートとなりました。

## アムさん

**過去最高値**  
**2玉入 33万円**

同日は五所川原市の阿部祐一さん、中泊町の松橋尚子さんが、つがる市木造地区のハウスで温泉熱を利用して栽培した計86ケース（529キ）と、黒石市の種市美夏さんが栽培した13ケース（68キ）が上場されました。当社農産指導課によると今回出荷されたアムさんは、定植は昨年より4日早く、開花期までは順調に進みましたが、4月下旬から5月上旬の低温による影響から肥大が抑えられ、早い開花のハウスほど小玉傾向となりました。しかし、5月中旬からは気温も上がり、昼夜の寒暖差から、糖度の上りも良く、一般的に平年並みの生育となりました。午前7時から始まった競売

では、青森オリジナルメロン生産者協議会渋谷充会長と同会役員や、阿部さん、松橋さんら生産者が見守る中、次々と取引されました。1キ当たりの平均単価は2385円と昨年を下回りました。今回の最高値について当社担当者は「品質の良さが評価された結果です」と話し、阿部さんは「生産者にとって高値で取引されることは大きな励みとなりま

す。農業資材の高騰等生産側には厳しい状況ですが、良い価格での取引を期待して、これから続くアムさんメロン出荷につなげていきたい」と話していました。この日出荷された「アムさん」は、青森県内の量販店の店頭に並び、販売されました。「アムさん」は7月上旬に出荷のピークを迎え、全体では約2万6千ケースの出荷を見込んでいます。

### メロン栽培後継者育成事業

同校の園地(約5アール)で行われた実習では、生徒が当社農産指導課の指導を受け、農業用マルチシートで覆われた土に穴を開けることから始まり、生徒達が役割分担をして作業に励んでいました。実習を終え工藤葵(あおい)さんは「先日行われたハウス・畑での勉強会で学んだことを思い出して作業に臨みました。先輩方は定植前にリモートで事前学習を

### ハニーゴールデン定植



ハニーゴールデンの苗を定植する生徒達

青森オリジナルメロン生産者協議会(渋谷充会長)と当社では5月30日、後継者育成事業の一環として今年で18年目を迎えたメロン栽培実習を五所川原農林高等学校で行い、同校生物生産科1年生24名(男子10名、女子14名)が、つがる市あんメロン「ハニーゴールデン」の苗202本を定植しました。同校の園地(約5アール)で行われた実習では、生徒が当社農産指導課の指導を受け、農業用マルチシートで覆われた土に穴を開けることから始まり、生徒達が役割分担をして作業に励んでいました。実習を終え工藤葵(あおい)さんは「先日行われたハウス・畑での勉強会で学んだことを思い出して作業に臨みました。先輩方は定植前にリモートで事前学習を

## 弘果グループ 定時株主総会

<p><b>弘果弘前中央青果</b></p> <p>取締役 営業部長 中嶋智 監査役 大中大輔 〔退任〕 大中謙治(監査役)</p>	<p><b>弘果水産地方卸売市場</b></p> <p>取締役 山内伸和 監査役 會田一男 〔退任〕 大中徹(監査役) 〔辞任〕 沢田正樹(取締役)</p>	<p><b>弘果物流</b></p> <p>専務取締役 水木政文 取締役 営業部長 赤平正彦 取締役 成田和雄 監査役 村上勇誠 〔退任〕 八木橋宏弥(取締役)</p>	<p><b>津軽りんご市場</b></p> <p>常務取締役 對馬智範 常務取締役 齋藤嘉章 取締役 野宮正美 〔辞任〕 石戸谷繁(取締役)</p>
<p><b>弘果総合研究開発</b></p> <p>取締役 對馬智範</p>	<p><b>弘果コスモ保険サービス</b></p> <p>取締役 葛西静男 監査役 村上勇誠 監査役 對馬智範 〔退任〕 葛西静男(監査役)</p>	<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 村上勇誠氏</p>	<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 成田和雄氏</p>
<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 赤平正彦氏</p>	<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 水木政文氏</p>	<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 野宮正美氏</p>	<p><b>弘果りんご園(株)</b></p> <p>取締役 齋藤嘉章氏</p>

## 紅まくら初競売

地場産西瓜「紅まくら」の初競りが6月10日、当社第1卸売場において行われ、5Lサイズ1箱が、昨年と同額の5万円で競り落とされました。今年産は、4月下旬に気温の低い日が続き、生育が心配されましたが、5月中旬以降は日照や気温の条件にも恵まれ、食味良く仕上がりました。



午前7時から始まった競売では、上場された110箱(前年比59.5%)が次々と取引され、平均単価は5618円(同113.0%)と昨年を上回りました。夏本番を迎え地場産西瓜は、ハウス栽培、雨除け栽培、露地栽培物が順次収穫出荷され、8月中旬頃まで出回ります。

# 期待込め栗こ南瓜を定植

## 柏木農業高等学校

柏木農業高等学校では5月26日、弘果オリジナルブランド「つがりあん」の「栗こ南瓜」の苗を定植しました。



収穫・出荷に向けて丁寧に定植する生徒達

同校生物生産科1〜3年生計36名が、当社農産指導課職員の指導を受け、苗の向きや土のかぶせ方に注意しながら、4ヶ月のほ場に苗100本を次々と植えていきました。収穫までの3ヶ月間、指導を受けながら高品質な南瓜を目指して栽培管理を行い、収穫、出荷を経て、量販店の店頭で販売体験を行います。

# 「農」の「業」を継ぐ

## 期待の後継者



家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。  
**稲宮 和さん (29)**  
【園地所在地】弘前市小沢  
【作付状況】りんご・1畝、桃・40畝

【就農年】2021年  
【きっかけ】りんごと共に育ってきたと言っても過言ではなく、祖父のりんご園で幼少期より、出来る範囲で手伝いをしていました。そんなりんごの関わりは大人になってからも変わらず、県外で就職をしていましたが、収穫時期には帰省して手伝いをしていました。その様な生活がしばらく続いた中、祖父が他界し、祖母が一人で栽培を行うことになりました。しかし、体力的にも作業的にも厳しい状態が続き、愛着があるりんご園を売却する話も家族間で出てきました。私自身、祖父の作業を見てきて、りんご栽培の大変さが身に染みていたので、おいそれとりんご園を継承するとは言えず、家業の今後について葛藤していました。しかし、祖父母との思い出が詰まったり園を手放すのは忍びなく、直面している現実を受け止め、栽培技術や農業経営等、私が勉強や経験を積み「けっばる」ことで、りんご園を維持していきたいと思ひ、本格的な就農を決定しました。

【現在】多岐に渡るりんごの作業を基本的に祖母と二人で行っています。手伝いの時とは違い、一つの作業にしても、その作業の効果や必要性を考えるようになりました。今は園主として、責任とプレッシャーを感じていますが、桃の栽培にチャレンジする等、着々と農業経営の基盤構築を図っています。  
【夢・展望】自分が好きでこだわったものを生産していきたいという信念を持っています。現在栽培している、りんごや桃をはじめ、あらゆる農作物の情報を収集し、自分が納得して選定した果物、野菜の栽培にも積極的にチャレンジし、自身の農業ビジョンを確立させていきたい。

【座右の銘】「緩急自在」仕事と遊び（心）と身体のリフレッシュのメリハリをつけた生活を心掛けています。無理はし過ぎず、ポジティブに仕事ができれば、自然と仕事に誇りと愛着が湧いてくると考えます。私がこのような仕事に対するスタイルを貫くことで、「りんご農家とはこうあるべき」という固定観念を払拭し、少しでも改革していくことで、仕事としての農業へ興味を抱く人が増えれば良いと考えています。

# 夏秋いちご

## 目揃え会で出荷基準を確認



出荷基準を確認する参加者

業務用需要が多い夏秋いちごの本格的な出荷シーズンを前に、弘果いちご栽培研究会（齋藤良彦会長）主催の目揃え会が5月25日、当社において行われました。会員ら約20人が参加した目揃え会では、弘果の販売担当者から今シーズンの情勢報告を受けた後、農産指導課職員から大きさや形状等の出荷規格の説明がありました。参加者は説明を聞き、品種規格別に並べられたいちごを、出荷の目安として確認していました。参加者は「夏秋いちご栽培の

# いちじく栽培講習会開催

当社果実部と農産指導課では5月15日、津軽地域でのいちじくの産地化へ向け、栽培講習会を開催しました。果実部では、オリジナルブランド「つがりあん」での商品化を計画しており、いちじくの生産拡大を促進しています。約30名が参加した同講習会では、基本的ないちじく栽培のポイントや栽培管理

について話し、参加者は今後の参考にしようという熱心に聞き入っていました。参加者は今回の講習会について「省力で高収益が見込まれる期待から、いちじく栽培を始めました。今回のように栽培情報を共有することで、品質が一定した高品質生産につながると考えます。初収穫に向けて、今日の講習内容を活かして頑張りたい」と話していました。また、農産指導課担当者は「青森県において、生産販売面でのいちじくの認知度はまだまだ低いと思ひます。これから産地化とブランド化を目指し、普及を推進していきたい」と話していました。



高品質生産を目指し講習を受ける参加者

**保険の見直し・プランのご提案等**  
お気軽にご相談ください！

取扱保険種類	取扱保険会社
【損害保険】 自動車、火災、 傷害（生産者傷害保険含む）、 賠償責任、自賠責	【損害保険】 東京海上日動 損保ジャパン あいおいニッセイ同和
【生命保険】 医療、がん、死亡等	【生命保険】 東京海上日動あんしん生命 三井住友海上あいおい生命 エヌエヌ生命 日本生命 SOMPO ひまわり生命

カーリースの紹介業務もはじめました

弘果コスモ保険サービス(株)  
TEL 0172-29-3353/FAX 0172-27-3411

**青果TS受付は 蒟蒻集荷所で行います**

受付時間  
午前11時～午後3時30分

6/26 (月)、6/29 (木)、  
7/3 (月)、7/6 (木)、  
7/10 (月)、7/13 (木)、  
7/18 (火)

※費用：3,000円  
(令和6年3月31日まで有効)

**生産者憩いの集い**  
7月4日(火)  
午前11時から  
蒟蒻集荷所で開催

**木造地区集荷所**  
オーブンのお知らせ

**6月25日(日)**

**弘果木造集荷所(南広森)**

【営業時間】午前8時～午後5時  
【電話番号】0173-26-3880

**弘果蒟蒻集荷所**

【営業時間】午前8時～午後5時  
【電話番号】0173-45-3460

**同時オープン**